



# 本 庄

## ロータリークラブ会報

**47 - 19 第 2267 回 例会 11 月 12 日 (木) 2009 年 11 月 19 日 (木) 発行**  
2009 ~ 10 年度 国際ロータリー会長 ジョン・ケニー 第 2570 地区 ガバナー 加藤玄静  
会長 田中 克 会長エレクト 戸谷清一 副会長 武井包光 副会長 杉山淑子 幹事 今泉憲治

### 《本日の例会》

卓話：第 2570 地区第 4 グループガバナー補佐  
武田 哲様

進 行 S A A 福島文江  
点 鐘 午後 12 時 30 分 田中 克 会長  
国 歌 君が代  
ソング 我等の生業・四つのテスト

11 月 26 日 (木) 第 2 回ゴルフコンペ 北武蔵 C C  
11 月 28 日 (土)  
12:00 ~ 14:00 みどりの埼玉植栽事業及び記念式典  
15:00 ~ 16:00 ガバナー公式訪問例会  
16:00 ~ 17:30 クラブ協議会  
17:40 ~ 19:30 懇親会  
11 月 29 日 (日) 本庄商業祭 楽市  
全メンバーの参加で各行事を盛り上げてください。

### 〔会長挨拶〕

田中 克 会長



皆様、こんにちは。本日は天皇陛下即位 20 年という記念すべき日、皆様と共に両陛下が健康で更に御活躍を戴ける事を心よりお祈り申し上げたいと思います。

本日の御客様を紹介します。第 2570 地区第 4 グループガバナー補佐の武田哲様です。補佐訪問例会にお越し頂き、クラブをあげて歓迎申し上げます。卓話をよろしく御願ひ致します。

#### < 本日の会長報告 >

新入会者中村浩史様入会式を 11 月 28 日に行う。  
モントリオール国際大会参加者申し込み締切迫る。  
11 月 13 日 (金) 秩父祭世界無形文化遺産推進部会  
発会式 (秩父神社) 加藤ガバナー 田中会長出席  
18:30 分 S A A 情報集会  
11 月 15 日 (日) 国際 R 第 2770 地区大会出席  
真下恵司 春山茂之 田中克 矢嶋淳一 巴高志  
11 月 19 日 (木) 11:30 ~ 12:00 指名委員会開催  
18:30 ~ 奉仕プロジェクト部会 情報集会  
11 月 20 日 (金) 18:30 ~ クラブ活性部会 情報集会  
執行部会

### 〔幹事報告〕

今泉憲治 幹事

みなさんこんにちはは幹事報告をいたします。  
埼玉県寄居林業事務所長様から 11 月 28 日に開催する「本多静六博士の森作り ~ 県民みんなで植栽 ~」の出席要請が届いております。  
埼玉県立本庄北高等学校長 名で「県立高等学校の後期再編整備計画 (案)」説明会についての通知がきております。  
「レッツぼらんていあ 44 号」が届いております。  
上田東ロータリークラブより先日の移動例会ご招待に対する礼状が届いております。  
合わせてその折の写真が届きました。回覧いたしますのでご覧ください。  
移動例会のときの写真を DVD として作製いたしました。会員分と昌他社の分を用意いたしましたので、会員一人 1 枚ずつお持ち帰りください。

以上で幹事報告を終わります。書類を回覧しますのでご覧ください。

### 〔委員会報告〕

モントリオール参加依頼 中島高夫 会員  
奉仕プロジェクト委員会 岡芹正美 副委員長  
ゴルフ部 矢島淳一 ゴルフ部長

## 〔卓話〕

### 第2570地区第4グループガバナー補佐

武田 哲 様



皆様こんにちは。ガバナー公式訪問を控え、事前の準備にお邪魔しました。どうぞ宜しくお願いを申し上げます。

本庄ロータリークラブのガバナー公式訪問は、本年度公式訪問最後の11月28日となっております。その時の要領は、「ガバナー公式訪問」についての要項」として、事前に会長・幹事さんと、打ち合せてありますが、お願いしたいことは、委員会事業方針は、委員会構成員の発表とかはならず、事業計画書を読むのではなく、重点の説明にして下さいということです。ガバナーは、事業計画書は事前にご覧になっておりまして、また、クラブにおいては事業計画の協議は既に済んでおられると思いますので、その時と同じでなく、事業の進捗状況や問題点、またガバナーにアピールなさいたいことを発表していただきたいと思います。

また、ガバナーは入会3年以内の会員の方との懇談を非常に重要視をされて居ります。但し、当クラブはガバナーのホームクラブなので、公式訪問完了にふさわしい特別メニューで、通常の3年未満の会員、役員との懇談の時間は省略となります。ひとつお願いしたいことは、その代わりに入会3年未満の会員の方の研修が、11月16日にありますので、入会3年以内の会員の方は、そちらにぜひ出て頂きたいと思っております。

今日は、卓話を聞いて頂くこととなっておりますので、少し時間を頂戴いたします。本日は「会員増強」がロータリーの課題だと思い、それをテーマといたしました。

会員増強の為には自分の属しているロータリーの良さを知って、信念を持って人に入会を勧めなければなりません。ロータリーは奉仕を志す者の集まりで、綱領で「有益な事業の基礎として奉仕の理想を鼓吹し、これを育成し・・・」と、しておりますが、この「奉仕の理想」が何なのか、それが一番分かりにくいと思っております。ロータリーの理念は「利己と利他の調和」を図る人生哲学であり、「利己」から始まったロータリーが、そうなるまでを「シカゴクラブの最初の定款」「ドナルド・カーター事件」「アーサー・フレデリック・シェルドンの職業奉仕」「決議23-34」といったことをお話し、「職業奉仕」の理念がロータリーの哲学の特徴であり、「奉仕」を実践すれば、社会も自分もよくなり、

それが「奉仕の理想」であるという結論にしたいと思っております。

ロータリーは沢山の良いところを持っていると思います。そして、奉仕にお金を出すだけの慈善団体ではなく、良い仲間との親睦を通じ、自己研鑽もでき、事業拡大の機会が得られるといった、利己的な面を決して否定せず、あえて言えば、シカゴでの発足当時はその利己的な面のみであったと思います。1906年1月に制定されたシカゴクラブの定款は

1. 本クラブ会員の事業上の利益の増大
2. 通常社交クラブに付随する親睦およびその他の特に必要と思われる事項の推進

という「物質的相互扶助と親睦」の一種エゴイスティックなものだったのですが、「ドナルド・カーター事件」の後

3. シカゴ市の最大の利益を推進し、シカゴ市民としての誇りと忠誠心を市民の間に広める

という一項を、カーター入会の条件として1907年に定款に追加しました。

「ドナルド・カーター事件」ですが、これは、会員間の取引を基にしての会員の事業の発展により、順調に発展してきたシカゴクラブへの入会を1906年4月、弁理士ドナルド・カーターに薦めたところ、彼は「職業を持って社会で生活している以上、職業を通じて社会に貢献することが自分が存在する証になるのであって、自分たちだけの利益にこだわって、社会的に何もしない団体に将来性も魅力もない」として、入会を断りました。

この事件を受けポール・ハリスは社会に対しての奉仕を、ロータリーの活動の一方の基本にすえ、ロータリーは世界的に評価を受けるようになってきた訳ですが、経済の発展と相まって、ドナルド・カーターの「社会への奉仕」、対外的な奉仕活動に心が動き、奉仕の機会を見出しそれを実践するロータリー運動が大きな波となってきました。所謂 We serve なのだと思いますが、これはライオンズ・クラブが社会奉仕で世に出てきた影響があったのこともと思いますが、この社会奉仕活動の行き過ぎた波にある意味の歯止めをかけたのがセントルイス大会での決議23-34「社会奉仕に関する1923年の声明」だったのかなと思っております。

先輩会員の皆様には聞き飽きた話だと思っておりますが、私にとってロータリーの理解に一番の早道だと思っておりますので、あえてお話しさせて頂こうと考えました。

決議23-34は単なる社会奉仕に対する指針ではなく、ロータリーの綱領に基づくすべての活動に対する指針であり、その中で、「ロータリーは、基本的には、一つの人生哲学であり、それは利己的な欲求と義務およびこれに伴う他人のために奉仕したいという感情とのあいだに常に存在する矛盾を和らげようとするものである。この哲学は奉仕 - 「超我の奉仕」(Service Above Self)の哲学であり、これは、「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」(He profits most who serves best)という実践的な倫理原則に基づくものである」と言っています。

この「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」という考えは1908年1月にシカゴクラブに入会したア

ーサー・フレデリック・シェルドンがロータリー入会前から20世紀経営学の基本理念として提唱していた職業奉仕理念を取り入れたもので、1911年にロータリー宣言に取り入れられた言葉です。シェルドンは、物質的な相互扶助に頼らず、継続的に利益を上げて事業を進展させる経営方法として、職業奉仕を説いたので、当時は決して倫理運動として進めたのではないのだそうです。当時は全米ロータリークラブ連合会に Business Method Committee という委員会があったようで、事業を進展させるための経営学であったようです。

1921年のエジンバラの国際大会でシェルドンは、ロータリーの奉仕哲学は、継続的に利益を得るための人間関係の基本原則であるとし、職業奉仕とは、リピーターを得るための科学的かつ道徳的な経営方法であると言ったようです。シェルドンは「あなたは何のために仕事をしているか」と問い、その正解を「自分の職業を通じて社会に奉仕するために仕事をする」と述べたようです。そしてお金を儲けようと思って仕事をするのが、事業を失敗する一番大きな原因なのだと述べたようです。因みにロータリーの「職業奉仕」(Vocational Service)という言葉は、1927年から使われるようになった用語で、4大奉仕の分化に伴いシェルドンの職業奉仕つまり原始ロータリーにおける一般奉仕理念が引き継がれたものようです。

ロータリーの奉仕は、シェルドンの「奉仕は他人の為だけでなく、自分の為に戻ってくる」という考えを進展させたのだと思っておりますが、私は、ロータリーは先ほどの「社会奉仕に関する1923年の声明」が「利己的な欲求と奉仕したいという感情との矛盾を和らげる人生哲学である」と言っていることに、最大の特徴があると考えてしまいます。また、それは、「超我の奉仕」の哲学のことであり、「自己を犠牲にしての奉仕」とまで考えなくてもよいと思います。Service Above Selfは、元は、Service not-Selfでロータリアンの間だけの取引を、外にも開放しようとの意味だったとの話もあるようですが。

奉仕の心、利他の心を持っていても、奉仕だけでは食べていけないと考えるのは自然であると思います。会員間の親睦、互惠取引で自分の生活を確固のものとするのが先ず大事な事で、他人に奉仕できる余裕があってこそ「奉仕の理想」を実現できると思います。「奉仕の為の人生」まで要求されては、私にはその資格がありません。

親睦と互惠取引から始まったロータリーが、社会性を持つようになり、シェルドンの原始ロータリーにおける一般奉仕理念としての「職業奉仕」理念を進展させ「奉仕活動での利己と利他の調和」として現在のロータリーの「職業奉仕」の考えにひきつがれたのだと思います。

そこが私のロータリーを好きな理由でありまして、「職業奉仕に関する声明」で、「職業の中に奉仕の理想を生かすこと」と言っていますが、それは、シェルドンの「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」という「奉仕の理想」を信じて、「利他」の心で職業を通じて社会に貢献することが「職業奉仕」であるという事だと思います。ただそのためには自身の職業が社会で存在可能な状態、つまり適正な利益を得られる状態にならな

ければならず、そこには競争社会で生き残る生存本能のエゴを前提にせざるを得ず、ただそのエゴが消費者も含む事業の関係者にとって取引ができないほどのものとなれば、自身の事業も成り立たなくなり、取引に関係するすべての関係者にとっても適正な利益を与えるものとなれば、社会への貢献を果たすこととなると、そういう理屈で「職業奉仕」を評価したいと思います。

今の時代、当たり前な考えで、各業界で「職業倫理」の基準がありますが、ロータリーの「職業奉仕」は、「奉仕の理想」を信じて「事業を進展」させるための「職業倫理」だと思っております。ロータリーは、つい忘れがちな当たり前のことを毎週の例会で思い起こさせてくれます。要するに、まず、取引の相手の利益そして社会への貢献を忘れず努力して自分の職業を成り立たせよう、そして、社会奉仕ができる様にしよう。ただの社会奉仕団体でなく、社会で生きる、人生のポリシーをロータリーは提供してくれていると思っております。

会員増強を図るには、会員がクラブライフは素晴らしいもので、いいクラブだから一緒に楽しみましょと、心底言えることが必要だと思っております。義理と圧力で「会費だけ払えばいいから取りあえず入りなさい」で会員を増やすのもよいですが、ずっとそのままであまりにも失礼だと思っております。

ぜひ、ロータリーの考えを自分の中にどう取り入れるか、その議論を深め、ロータリーの考えが合う人を増やすことで、会員増強を図って頂きたいというのが、今の私の考えでありまして、何といたってもロータリーの独自性は「職業奉仕」にあると思っております。企業の社会的責任が、不況下でなおざりにせざるを得ない今の時代で、ロータリーの「職業奉仕」の「職業倫理」を各会員に啓発することは、ロータリーに入っていたお陰で事業をしくじらなかつたとの感謝の言葉になって返ってくるのではないのでしょうか。

R Iも、暫く「職業奉仕」をなおざりにしておったのですが、本年の国際協議会本会議で元R I会長ラジェンドラ・サブー氏の「職業奉仕：忘れ去られた部門」という感動的な講演で、「ロータリーに職業奉仕が戻ってきた」といわれています。ぜひ「職業奉仕」の考えをクラブでも再確認して頂きたいと思っております。

私も、ロータリーをどれほど理解できているか分かりませんので、間違った理解があるやもしれません。今日の話の材料は、田中毅さんとおっしゃる尼崎の方のバスターガバナーが開設してらっしゃる「ロータリーの源流」(<http://www1.odn.ne.jp/~caz52570/>)というサイトの資料をもとに勉強してみたものですが、何かお気づきのところがあればご教示頂ければと思います。あまり気楽に「ロータリーの友情」で逃げてもいけません、「好意と友情を深める」ように、宜しくお願い致します。ご静聴有難うございました。

〔ニコニコBOX〕

金井直樹

「武田ガバナー補佐、10月29日の移動例会ご出席ありがとうございました。本日はよろしくお願ひ致します」  
関口礼子

「黒豆の注文をしなくては、もうすぐおせちです。」

「武田哲ガバナー補佐、本日はようこそお越し下さいました。」

田中 克 矢島淳一 巴 高志 八木茂幸 下山正男  
金井澄雄 笠原 勝 岩淵富男 中島高夫 福島文江  
今泉憲治 戸谷清一 関根 貢 五十嵐敦子 岡芹正美  
三宅健吉 茂木 聡 松原幹男 野村正行 澁澤健司  
渋谷修身 竹並栄一郎 橋本恒男 佐藤賀則 真下恵司  
坂本優蔵 岡崎正六 茂木 正 梅村孝雄 石原 修  
春山茂之 野澤章夫 山田喜一 長谷川京子 中村 孝

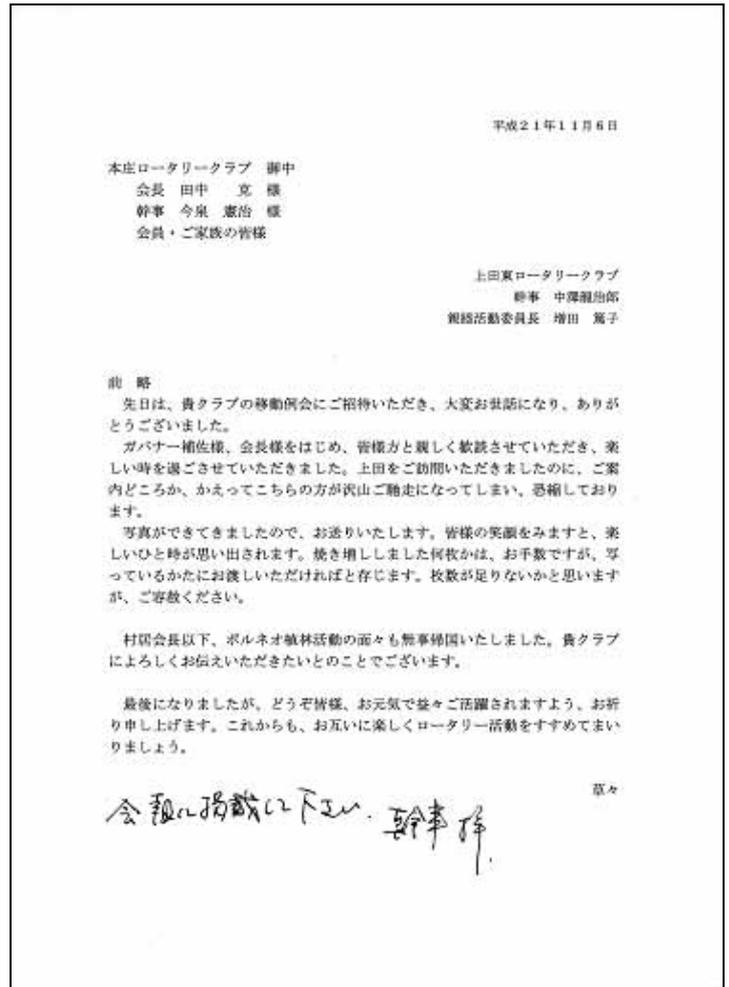
〔出席報告〕

会員数	出席免除 会員数	出席義務 会員数	出席 会員数	出席率
69名	5名	64名	46名	85%

次回プログラム

10月19日(木) 午後12時30分 第三例会  
埼玉グランドホテル本庄  
指名委員会

上田東ロータリークラブ 幹事 中澤龍治郎様・親睦活動委員長 増田篤子様から10月29日の移動例会参加のお礼状が届きました。



広聴広報委員会 矢島淳一・飯塚明男・岩淵富男・塚越 茂・笠原 勝・山田喜一

例会日 毎週木曜日 12:30~13:30

事務所 埼玉グランドホテル本庄700号

〒367-0041 本庄市駅南2-2-1

TEL 0495-22-7522 FAX 0495-22-3571

例会場 埼玉グランドホテル本庄

Eメール honjorc@themis.ocn.ne.jp

ホームページ

<http://www.globals.jp/hp/HRotary/index.html>